

(17) フィニステレ、 巡礼の終わりに

人は何故サンティアゴを目指すのだろうか。9世紀の初頭に始まった巡礼の旅が現代も続く。人は夫々の人生を担い夫々の思いのうちに神との出会いを求めてただひたすら歩き続ける。そしてある時、ふと神を感じ、神を讃え、感謝する。巡礼に来てよかったと思う瞬間である。自己発見や自己改革を目指す人もいれば、今流にスポーツ感覚の体力試しや世界遺産の史跡廻りを楽しむ人もいる。たとえどんな目的や理由であれ、カミノ・デ・サンティアゴを行く者は、光り輝く大自然と純朴で心温かい人々の笑顔と、素材を生かした美味しい食卓に迎えられるだろう。が、一方、思わぬ厳しさに出会うことがあるかも知れない。過去6回もサンティアゴ巡礼を経験されたカトリック紀行作家の古川清志氏は、「聖母の騎士」(2006・3号)に「サンティアゴ巡礼は大変過酷で、中世の昔から病人や死者が絶えることがなかった」「今年はずいに日本人の墓標を見た」と記しておられる。我々が通った道にも、今夏の、ごく最近の日付が刻まれた女性名の墓標に、若い金髪の笑顔の写真と真新しい花束が添えられていた。



10月28日(日)

明日はサラマンカへ向かう。これまで何かと心配し助けてくれた矢島夫妻が待っている。夕方になって、最後の思い出づくりのために、英語の通訳ガイドが運転するコーチを借り切って、更に西へ90キロ、大西洋に突き出たスペイン最西端の岬フィニステレ= (語源: el finis Terre) 「大地の終り、地の果て」という名の岬まで、夕陽を見るために2時間ほど車を走らせた。途中、モンテ・ド・ゴソで出会ったエジプトの巡礼者が引き続けているリヤカーを追い抜いた。



フィニステレへの途中、海岸沿いの小高い岬に十字架が立ち、丘の上には古い教会があった。

“フィニステレ”はスペイン語、地元ガリシア語では“フィステーレ”と呼ばれている。

沈みゆく大きくて真っ赤な太陽を追いかけながら大西洋の広い碧の中に吸い込まれるように海岸沿いの高速道をひた走った。この日の日没18時20分、残念なことに夕陽は雲に隠れて見ることは出来なかったが、雲の上空が真っ赤に燃えて我々を赤く染めた。海の向こうはカナダ、この岬で巡礼を終えた一人のカナダ人と出会った。

岬の道標には“0.0キロ”と刻まれていた。フィニステレ？ 否！ここで終わりではなく“古い衣を脱ぎ捨てて”新たな自分を“0.0”から始めたいと思った。 (完)



道標には“0.00 K.M.”と刻まれていた。

2007 サンティアゴの道を再び、111キロ (完)

<あとがき>

サンティアゴの巡礼を終えると“人がやさしくなる”と昔から言われているようだ。しかしそれはピレネー山脈を越えてはるか遠い国から幾多の苦難を克服して到達した人たちのことを指して言うのであって、たかが100キロ程度に7日間もかけて、しかも荷物も担がないで、殆んど毎日のようにバスルーム付きの寝心地の良い並み以上の宿屋で過ごした者には全く無関係な言葉である。優しくなるどころか、教会関係者や安嶋氏のうまいお世辞に乗って、下手くそな巡礼紀行文を読んでもらおうなどと、あつかましいにもほどがあると思いながらも、とうとうヤッテしまった。安嶋氏がうまいのはお世辞だけではなかった。寄稿中の適切なガイドやアドバイスは勿論だけれど、15会HPに掲載される諸兄の写真や作品を見本にするように、とは一言も言わないのだが、写真をもっと大きく沢山乗せるようにした方が、とか、うまくそうする様に誘導された。しかし、そう言われても肝心の載せる写真がそれ程ないことに気が付いた。歩くことに必死で、写真を撮る余裕もなかったのかなあー、やっぱり100キロ、我々の体調を考え合わせればよく歩いたと思うと、言い訳しながら、あらためて安嶋氏に感謝したい。

さて、横浜へ帰ってすぐMRIを撮って診て貰ったが、医者は「何だったんでしょうネー」巡礼第四日目が終わって疲れた後のたった一口のワイン、メリデの宿での出来事は、やっぱり一瞬の“突発性居眠り”だったのかなあ。まだまだいろいろと行ってみたいところがあるので、この一件を是非とも大久保医師に聞いてみたいと思っている。今後の楽しみとしては、カトリック3大巡礼地で未だ行ったことのないローマ、国内では五島には是非行ってみたい。冥土の土産にしようと思いに取ってある。それまで健康でいたいものである。小野、石川、竹内、矢島の諸兄に感謝しつつ、

2009/12/16



大聖堂のサンティアゴ像



山本 順 神奈川県 64歳
スケッチ入門

描写は、建物を中心にたいへんしっかりされており、この国の雰囲気をよく出しています。色画用紙には、ホワイトを効果的に使える利点があるので、建物の明るいところなどに効かせてみては。

2004/11 エルサレム巡礼時のスケッチ

講評は NHK 通信講座